

主要産地における令和4年産水稻の生育状況等について 第6報 (令和4年7月1日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和4年7月1日)

道府県	区分	生育状況等	技術・防除・気象等関連公表資料 (自治体、気象等公表資料の抜粋)	(参考)
		育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等		
北海道	【生育状況 (6月15日現在)】 (全道) 各作物の生育は、低温と日照不足により停滞した (特にオホーツク海側で影響が大きかった) のもの、平年並に推移している。(北海道農政部 6月21日付) (空知) 生育は平年並であり、分けつは発生も順調である。(空知総合振興局 6月21日付) (石狩) 低温で生育は遅延。(石狩振興局 6月21日付) (後志) 遅延は早 1日。(後志総合振興局 6月21日付) (胆振) 6月上旬は低温により生育が緩慢となったが、全体的な生育は平年並。(胆振総合振興局 6月21日付) (渡島) 生育は平年より少ないが、生育は平年並に進んでいる。(渡島総合振興局 6月21日付) (檜山) 生育は概ね平年並で推移。(檜山振興局 6月21日付) (上川) 生育は平年並に推移している。(上川総合振興局 6月21日付) (留萌) 生育は平年並に進んでいる。(留萌振興局 6月21日付) (オホーツク) 低温寡照により、分けつが遅れている。(オホーツク総合振興局 6月21日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は平年並が多い見込み。(気象庁札幌管区気象台)  【向こう3か月の天候の見通し7月～9月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台)  【高温に関する早期天候情報】 北海道地方は7月6日頃から、かなりの高温 (気象庁札幌管区気象台)	令和4年度の品種構成等の情報  ・「なつぼし」及び「ゆめひかり」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。  (農林水産省 3月16日)  (出典資料は以下同じ)	
青森	【6月30日現在の生育状況】 「つがるロマン」 草丈が44.9cmで平年より0.8cm短く、株当たりの茎数は26.3本で2.7本少なく、葉齢は9.3葉で0.1葉多かった。 「青天の霹靂」 草丈が52.4cmで2.8cm長く、株当たりの茎数は26.6本で0.4本多く、葉齢は8.6葉で0.2葉多かった。 「まっしぐら」 草丈が57.5cmで5.6cm長く、株当たりの茎数は31.2本で1.0本多く、葉齢は9.1葉で0.3葉多かった。 「はれわたり」 草丈が52.8cm、株当たりの茎数は27.5本、葉齢は9.0葉であった。 (青森県産業技術センター農林総合研究所 7月1日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)  【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)  【高温に関する早期天候情報】 東北地方は7月6日頃から、かなりの高温 (気象庁仙台管区気象台)  向こう1か月、イネミズゾウムシの発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 6月8日付)	・「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で割合を占める品種構成で、近年、収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり、令和4年産も同様の傾向になるものと考えられる。	
岩手	【6月24日現在】 ・ 草丈は平年並-6.2～-11.8cm、葉齢が平年並-0.1～-0.7 葉と平年を下回っている。 ・ 茎数は平年比 78～60%と平年を下回っているもの、6月中旬以降は気温、日照時間が平年を上回って推移したため、前回 (6月15日) の調査時 (66～55%) より回復しつつある。 (生育) ・ 葉色 (SPAD 値) は平年並+1.7～+1.7 と、品種によりばらつきがみられるもの、ほぼ平年並で推移している。 (岩手県 6月28日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)  【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)  【高温に関する早期天候情報】 東北地方は7月6日頃から、かなりの高温 (気象庁仙台管区気象台)  向こう1か月、イネミズゾウムシの発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 6月8日付)	・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。粟のオリジナル品種である「銀河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。	
宮城	【6月20日現在】 (亙理) 「ひとめぼれ」 ・ ほとんどのほ場で10日前と比べて 1 m <sup>2</sup> 当たり茎数は平年値に近づいており、生育は回復傾向にある。 「だて正夢」 ・ 「ひとめぼれ」と同様の傾向で、1 m <sup>2</sup> 当たり茎数は6月10日で135 本 (平年比 61%) だったが、6月20日では344 本 (平年比 86%) に増加している。 (生育) 「金のいぶき」 ・ 調査ほ場は田植えが上旬だったということもあり、5月末からの低温の影響が比較的小さく茎数は順調に増加しており、目標茎数の8割を超えている。 (宮城県亙理農業改良普及センター 6月24日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)  【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)  【高温に関する早期天候情報】 東北地方は7月6日頃から、かなりの高温 (気象庁仙台管区気象台)	・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。	
秋田	【6月24日調査】 (秋田) 「あきたこまち」の生育は草丈が37.0cm (平年比94%)、茎数が353本/m <sup>2</sup> (平年比84%)、葉齢が9.2葉 (平年比+0.3葉)、SPADが48.6 (平年比111%) となっている。 (秋田県農林水産部 6月27日付)  (由利) 分けつが確保されたほ場から、中干しに入っている。 (山本) 管内での水稲定点調査結果は、草丈が34.7cm (平年比94%)、茎数が339本/m <sup>2</sup> (平年比82%)、葉齢が8.9葉 (平年+0.1)。田植直後の低温・強風と、6月上旬の低温・強風・日照不足の影響で、茎数が平年よりも少なくなっている。 (秋田県農林水産部 6月24日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)  【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)  【高温に関する早期天候情報】 東北地方は7月6日頃から、かなりの高温 (気象庁仙台管区気象台)  向こう1か月、イネミズゾウムシの発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 6月8日付)	・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。	
山形	【6月30日現在】 ・ 6月1～3半旬の低温の影響で生育が遅延していたが、6月4半旬以降の気温の上昇に伴って生育が回復してきている。 ・ 平坦部「はえぬき」の生育は、平年と比較して草丈は長く、茎数は少なく、葉数は並、葉色はやや濃くなっている。 ・ 農業総合研究センターによる幼穂の検調調査では、早生品種の出穂は概ね平年並と予想している。 (山形県産米ブランド推進課 6月30日付) (生育) ・ 「雪若丸」 指穂値に比べ草丈はやや長く、茎数は多く、葉数はやや多く、葉色は濃くなっている。6月下旬の高温と浅水管理の徹底によって、茎数・葉色とも極端的に上がっており、前回調査(6月17日) までとは生育状況が全く違ってきている。 (山形県産米ブランド推進課 6月30日付)  (酒田飽海) ・ 茎数は平年比ではやや少ないが、指穂値の茎数は確保されており、ほとんどの圃場で6月上旬の生育停滞の影響は感じられなくなった。水田農業研究所の6月29日の調査では、「はえぬき」「雪若丸」「ひとめぼれ」で出穂が1～2日早まると予想されている。(酒田農業技術普及課 7月1日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)  【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)  【高温に関する早期天候情報】 東北地方は7月6日頃から、かなりの高温 (気象庁仙台管区気象台)	・「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。	
福島	【6月7日調査】 ・ 農業総合センターの生育調査では、草丈は本部 (郡山市) が平年並からやや長く、会津地域研究所 (会津坂下町) と浜地域研究所 (相馬市) が短くなっている。茎数は、各地域ともやや少ないから少なくなっている。主稈葉数は、本部と浜地域研究所が平年より少なく、会津地域研究所が平年並となっている。 (福島県 6月10日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。日照時間は平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)  【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)  【高温に関する早期天候情報】 東北地方は7月6日頃から、かなりの高温 (気象庁仙台管区気象台)	・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天のつぶ」が増加していたが、病倒米への転換が増加していることから比率はやや低下している。	
茨城	【6月20日現在、水戸市】 (5月2日移植) ・ 主稈葉数の展開からみた生育は、「あきたこまち」で平年より2日遅く、「ふくまるSL」で3日遅く、「コシヒカリ」で2日遅い。 (5月10日移植) ・ 「コシヒカリ」の主稈葉数の展開からみた生育は、平年より2日早かった。 (茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 6月24日付)  (生育) 【6月16日現在、龍ヶ崎市】 (4月21日移植) ・ 主稈葉数の展開からみた生育は、「あきたこまち」「コシヒカリ」で平年並、「ふくまるSL」で平年より1日遅い。 (5月6日移植) ・ 「コシヒカリ」主稈葉数の展開からみた生育は、平年より2日遅い。 (茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 6月17日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。(気象庁東京管区気象台)  【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)  向こう1か月、綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 6月8日付)	・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年、多様な多収米への作付け移行が進んでいる。	

<p>栃 木</p> <p>(生育)</p>	<p>(6月22日時点) 草丈は平年を下回っているが、莖数・葉色は平年並、生育量(生育診断値)はおおむね平年並。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼穂分化(農業試験場 6月24日)</li> <li>「初葉」は6月22日に分化が確認された。平年より2日遅かった。</li> <li>「なすひかり」は6月23日に確認され、平年と同時期。(本年は移植が5日遅い)</li> </ul> <p>(栃木県農政経営技術課 6月24日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>向こう1か月、綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 6月8日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。</li> </ul>
<p>千 葉</p> <p>(生育)</p>	<p>【6月15日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月は第2半旬から第3半旬にかけて気温は低く日照時間も少なくなりましたが、「ふさおとめ」「ふさこがね」の幼穂形成期は平年並にむかえている。</li> <li>・4月20日植え「コシヒカリ」は6月23日頃から、「勲すけ」は6月22日頃からとなる見込み。</li> <li>・また、草丈はやや短く、葉色は平年並みに推移しており、「ふさおとめ」「ふさこがね」では莖数がやや少なくなっている。</li> <li>・ただし、県北地域の生育量は平年並のところが多く、県南地域に向かうほど平年よりやや少なくなっている。</li> </ul> <p>(千葉県 6月17日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。令和2年産から新品种「勲すけ」の本格栽培が開始</li> </ul>
<p>新 潟</p> <p>(生育)</p>	<p>【6月30日現在】</p> <p>(新発田) 出穂は、平年よりやや早まる見込み。(新発田普及指導センター 6月30日付)</p> <p>(新 潟) 出穂期は早生で平年比3日早い。中生で平年比2日早い。(新潟農業普及指導センター 6月30日付)</p> <p>(三 条) 生育は草丈やや長い、葉色濃い。出穂期は早生・中生とも2日ほど早まる予測。 (三条農業普及指導センター 6月30日付)</p> <p>(岩 船) 管内の早生品種(ちほみのり、つきあかり等)が幼穂が確認され始めている。「コシヒカリ」の出穂期は平年並の見込み。 5月上旬移植の早生品種は、前年並みに出穂が早まる見込み。(村上農業普及指導センター 6月30日付)</p> <p>(柏 崎) 出穂は平年より2～3日早くなる見込み。(柏崎農業普及指導センター 6月30日付)</p> <p>(佐 渡) 「コシヒカリ」生育過剰のほ場が目立ち、籾数過剰による品質低下が懸念される。出穂期は平年より3日程度早いと予想。(佐渡農業普及指導センター 7月1日付)</p> <p>(十日町) 「コシヒカリ」の生育は、草丈は「並」、莖数は「やや多い」、葉数の進みは「並」、葉色は「並」。平坦地では、ほ場により強色が始まっている。移植の早い早生品種では、幼穂形成期に進んでいるほ場も見られる(5月8日移植の五百万石など)。(十日町農業普及指導センター他 6月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子舞」「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品种「新之助」(晩生種)の作付拡大を推奨している。</li> </ul>
<p>富 山</p> <p>(生育)</p>	<p>【本田での生育状況(6月28日)】</p> <p>「コシヒカリ」：葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈、葉色は並、莖数はやや多くなっている。 今後、平年並の気温で推移した場合、幼穂形成期、出穂期は、それぞれ平年より1日程度早い7月10日頃、8月1日頃と見込まれる。</p> <p>「てんたかく」：幼穂形成期は、近年並の6月24日となった。 今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は7月16日頃と見込まれる。</p> <p>「てんこもり」：葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈はやや短く、莖数はやや多く、葉色は並となっている。 今後、平年並の気温で推移した場合、幼穂形成期、出穂期は、それぞれ平年より1日早い7月11日頃、8月3日頃と見込まれる。</p> <p>「富富富」：近年に比べ、草丈はやや長く、莖数、葉色、葉齢は並となっている。 今後、平年並の気温で推移した場合、幼穂形成期、出穂期はそれぞれ近年より1日程度早い7月12日頃、8月3日頃と見込まれる。 (富山県 6月28日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温多湿でも品質が安定している「てんこもり」及び「てんたかく」県のトップブランドに位置づけている「富富富」が増加傾向にある。</li> </ul>
<p>石 川</p> <p>(生育)</p>	<p>【6月28日調査】【本田の生育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出穂期予想</li> <li>「ゆめつば」の出穂期予想は、加賀地域で7月15～19日頃と平年に比べ1～2日程度早く、能登地域(羽咋～中能登)は7月19日頃と平年に比べ4日程度早いと見込まれる。また、能登地域(奥能登～珠洲)の「能登ひかり」の出穂期は、7月20～22日頃と近年に比べ4日程度早くすると見込まれる。</li> </ul> <p>(石川県農林総合研究センター 6月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」及び「ゆめつば」を中心とする品種構成であるが、近年、新品種である「ひやくまん殿」が増加傾向にある。</li> </ul>
<p>福 井</p> <p>(生育)</p>	<p>(5月2日移植 ハナエチゼン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼穂形成期は6月26日(平年より1日早い)。</li> </ul> <p>(福井県 7月1日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。なお、新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。</li> </ul>
<p>長 野</p> <p>(生育)</p>	<p>(須坂市八重森の農業試験場における水稲生育状況)「あきたこまち、コシヒカリ、風さやか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移植後40日の生育は、6月5～6半旬が平年より大幅に高温(平均気温で+5℃程度)であり、主桿葉数、草丈、莖数ともに進んでおり、特に草丈が長い傾向にある。</li> </ul> <p>(原村試験場における水稲生育状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移植後30日の生育は、主桿葉数は「きらりん」、「あきたこまち」で平年並み、「ゆめしなの」でやや遅れている。</li> <li>・草丈はいずれの品種も平年並みである。莖数は「きらりん」、「ゆめしなの」はやや少なく、「あきたこまち」は平年並みである。気温が高温で推移したことから、移植後20日と比べ生育が回復したと思われる。</li> </ul> <p>(長野県農業試験場 6月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県のオリジナル品種「風さやか」の導入を推進している。</li> </ul>
<p>滋 賀</p> <p>(生育)</p>	<p>【農業技術振興センター 水稲作況調査(6月20日時点)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は平年に比べ「みずかがみ」は低く、「コシヒカリ」はやや低かった。</li> <li>・莖数は、両品種ともに平年より少なかった。</li> <li>・葉色は、両品種ともに平年より濃かった。</li> <li>・葉数は、「みずかがみ」は平年並、「コシヒカリ」は平年よりやや多かった。</li> </ul> <p>(滋賀県農業技術振興センター 6月27日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「日本晴」及び「みずかがみ」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。</li> </ul>

兵 庫	<p>(6月1日現在)</p> <p>(県北) 移植後、気温の高低差が大きいものの、本田での生育は順調である。</p> <p>(県南) 現在、苗の生育は順調である。</p> <p>(生育) (兵庫県 6月6日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「ネオヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。 「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。</p>
岡 山	<p>・極早生種の生育は概ね平年並である。</p> <p>(岡山県病害虫防除所 6月29日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p>	<p>・「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」、「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。</p>
広 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>
愛 媛		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 6月8日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着してきている。</p>
高 知	<p>【早期稲(分けつ期)】 ・気温はやや低いものの、好天に恵まれ、生育は概ね順調に経過している。</p> <p>【普通期稲(育苗期～活着期)】 ・移植後、天候は安定しており初期生育は良好で、草丈は平年並み、茎数はやや多い。 ・スクミリンゴガイによる食害は一部で認められるが少ない。ウンカ類の発生はほ場では確認していない。</p> <p>(生育) (高知県病害虫防除所5月月報 6月7日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 6月8日付)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>
福 岡	<p>【6月15日現在】</p> <p>【早期水稲】(夢つくし、コシヒカリ) ・田植え後、天候は安定しており初期生育は良好で、草丈は平年並み、茎数はやや多い。 ・スクミリンゴガイによる食害は一部で認められるが少ない。ウンカ類の発生はほ場では確認していない。</p> <p>(生育) 【普通期水稲】(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど) ・育苗期の天候は概ね安定しており、生育は良好で病害の発生は少ない。 ・一部地域では、5月中旬～6月上旬植え、水不足の影響により田植えが遅れていたが、6月5～6日の降雨により概ね解消している。</p> <p>(福岡県農林業総合試験場 6月15日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向、「元気つくし」が増加傾向となっている。なお、県では今後新品種「夢つくし」の拡大を推奨している。</p>
熊 本		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの隣き」はリーディング品種として取扱いが年々拡大している。</p>
宮 崎	<p>【作物の生育状況(6月中旬)】</p> <p>(生育) ・早期水稲は穂ばらみ期、普通期水稲は移植前後(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月22日)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みさ358」への作付誘導が進められている。</p>
鹿 児 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月2日～8月1日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。</p>

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を掲載情報部で取り纏め。  
注2：令和4年7月1日12時時点での取り纏め。  
注3：更新箇所は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 6月15日現在(北海道農政部 6月21日)、  
農作物生育状況 6月15日現在(北海道空知総合振興局 6月21日)、  
農作物の生育状況 6月15日現在(北海道石狩振興局 6月21日)、  
農作物の生育状況 6月15日現在(北海道後志総合振興局 6月21日)、  
農作物の生育状況 6月15日現在(北海道胆振総合振興局 6月21日)、  
農作物の生育状況 6月15日現在(北海道渡島総合振興局 6月21日)、  
農作物の生育状況 6月15日現在(北海道檜山振興局 6月21日)、  
農作物の生育状況 6月15日現在(北海道上川総合振興局 6月21日)、  
農作物生育状況調査の概要 6月15日現在(北海道留萌振興局 6月21日)、  
農作物の生育と農作業の進捗状況 6月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 6月21日)、  
水稲作況調査報告(6月30日現在の生育状況)(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所 7月1日)  
令和4年度水稲生育定期調査結果No.3(6月24日現在)(岩手県農業研究センター 6月28日)、  
令和4年稲作情報第3号(宮城県亶理農業改良普及センター 6月24日)、  
こまちチャンネル<http://www.e-komachi.jp/>(7月1日閲覧)、  
酒田・飽海米づくり情報第7号(山形県酒田農業技術普及課 7月1日)、  
米づくり技術情報No.6(山形県県産ブランド推進課 6月30日)、  
雪若丸技術情報No.5(山形県県産ブランド推進課 6月30日)、  
主要な農作物の生育情報令和4年度第3号(福島県農林水産部 6月10日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター 農業研究所 6月24日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター 農業研究所 6月17日)、  
令和4(2022)年度水稲生育診断予測事業速報No.3(栃木県 6月24日)、  
水稲の生育と当面の対策第3報(千葉県農林水産部 6月17日)、  
R4岩船米生育速報(6月30日現在)(村上農業普及指導センター 6月30日)、  
令和4年度新発田地域水稲生育速報No.4(新発田農業普及指導センター 6月30日)、  
稲作速報No.4(新潟農業普及指導センター 6月30日)、  
FAX稲作情報No.6(三条農業普及指導センター 6月30日)、  
令和4年度稲作生育速報No.4(佐渡農業普及指導センター 6月30日)、  
十日町地域稲作生育速報(十日町農業普及指導センターほか 6月30日)、  
稲作生育速報第4号(柏崎農業普及指導センター 6月30日)、  
TACS情報第5号(富山県 6月28日)、  
令和4年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-6号)(石川県農林総合研究センター 6月30日)、  
稲作情報No.9(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月1日)、  
農業試験場水稲試験圃の生育状況(令和4年度)(長野県農業試験場 6月30日)、  
水稲高標高試験圃の生育状況(令和4年度)(長野県農業試験場 6月30日)、  
令和4年度水稲生育診断情報No.2(滋賀県農業技術振興センター 6月27日)、  
令和4年度兵庫県農業気象技術情報No.2(6月情報)(兵庫県 6月6日)、  
令和4年度病害虫発生予報第4号(岡山県 6月29日)、  
病害虫発生予察情報について(高知県病害虫防除所 6月7日)、  
福岡県の主な農産物の生産状況(専技情報より抜粋)(福岡県農林業総合試験場 6月15日現在)、  
令和4年度病害虫発生予報第2号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月22日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(6月30日札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(6月30日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(6月30日気象庁)、  
北陸地方こう1か月の天候の見通し(6月30日新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(6月30日大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(6月30日広島地方気象台)、  
四国地方こう1か月の天候の見通し(6月30日高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(6月30日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(6月30日鹿児島地方気象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(6月21日札幌管区気象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(6月21日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(6月21日気象庁)、  
北陸地方こう3か月の天候の見通し(6月21日新潟地方気象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(6月21日大阪管区気象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(6月21日広島地方気象台)、  
四国地方こう3か月の天候の見通し(6月21日高松地方気象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(6月21日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(6月21日鹿児島地方気象台)、

高温に関する早期天候情報(北海道地方)(6月30日札幌管区気象台)、高温に関する早期天候情報(東北地方)(6月30日仙台管区気象台)、

令和4年度 病害虫発生予報第3号(農林水産省 6月8日)、  
令和4年度水稲の10a当たり平均収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月16日)